

たまねぎべと病の予防散布を徹底しましょう！

1 発生状況等

一昨年の大発生後、昨年は積極的防除により少発生であったが、本年3月は気温が平年並か高く、降水量が多いと予想がされており、感染・まん延の恐れがあるので注意が必要である。



越冬罹病株



越冬罹病株と健全株(周囲)



2次感染株(通常のべと病)

2 べと病の生態等

(1) 作物残渣などから、苗床・定植後に感染(11~12月)する。

(2) 感染した株は越冬し、冬期(2~3月)に病徴として症状を示す(写真左・中 越冬罹病株)。葉は黄化し、つやがなく、萎縮、ねじ曲がり、硬くなる。こうした株の本数は非常に少ないが感染力は強い。

(3) 越冬罹病株が感染源となり、春(3~5月)に温暖(15℃前後)で、降水量が多いと、2次感染株(通常のべと病株)の発生が増え、急速にまん延する(写真右)。

3 防除対策

(1) 越冬罹病株の抜き取りを徹底する。前年、発生が多かったほ場では、発生が増える恐れがあるので注意してほ場を見回るようにする。抜き取った株は、ビニル袋等に入れて処分する。

(2) ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤等を予防主体に散布する。

(3) 発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤・ザンプロDMフロアブル等を散布する(表)。

表 べと病の防除薬剤(例)

薬剤名	系統(FRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤	ジチオカーバメート(M3)	400~600倍	収穫3日前まで	5回以内
ベトファイター顆粒水和剤	その他(27) CAA(40)	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールド MZ	フェニルアミド(4) ジチオカーバメート(M3)	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSI(45)	1,500~2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライフロアブル	その他(27) QoI(11)	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	CAA(40) クロロニトリル(M5)	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
メジャーフロアブル	QoI(11)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールド MZ に含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。

● Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

● 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)